



# 待兼山から羽ばたく。

社会の変化に伴い、法曹の活躍の場は、多種多様な領域へ広がりつつあります。

入学される皆さんのが眞の「Legal Professionals」に成長し、  
本学のある待兼山から、広大な司法の世界へ羽ばたけるよう  
私たちは一丸となって、全力でサポートします。



## 本気で眞のLegal Professionalを目指す



高等司法研究科長  
**松本 和彦**

大阪大学高等司法研究科の教育理念は「新時代を担う、眞のLegal Professionalsの育成」です。この教育理念は「少人数・段階的教育」「理論と実務の架橋」「複眼的思考と国際性」「現代的課題への対応力」の4つの柱によって支えられています。最初の第1の柱は、少人数の双方向・対話型授業により、基礎から段階的に学修を積み上げていく教育モデルを意味します。また第2の柱は、法曹としての実務能力と倫理観を基礎理論によって裏づけていく教育デザインのイメージです。第3の柱は、複雑かつグローバル化する社会に立ち向かう際に必要とされる基本的能力の涵養を念頭に置いており、さらに第4の柱は、絶えず解決を迫る課題に対しても粘り強く対応していく基本的技能の充足を意図

しています。本研究科の教育プログラムも教育カリキュラムも、この4つの柱を意識した教育理念から構成されています。本研究科は法曹養成機関であり、Legal Professionalsの育成を使命としています。しかし、ここでいうLegal Professionalsが、単に法的知識を備えた実務法曹とされるだけでは不十分です。現代のような変化の激しい時代は、常に「新時代」とへ変貌していく契機を秘めています。「新時代」では従来の常識にしがみついたままでいることが許されません。「新時代」では既存の法的知識もすぐに干からびります。干からびた法的知識しか持たない法曹は、変転する現実に対応できませんし、まして「新時代」を担うことなどできません。「新時代」にあっても、

法曹として社会に貢献していくためには、眞のLegal Professionalになる必要があります。だから本研究科は、「新時代を担う、眞のLegal Professionalsの育成」を目指すのです。

「新時代」に目を向けることは、確かに未来を志向することです。しかしこのことは当然ながら、単に新奇を追い求め、過去をないがしろにすることを意味しません。むしろ過去を見据え、反省し、絶えず基本に立ち戻ることを求めます。現実の社会の要求に応えようと急ぐあまりに、先人の知恵から学ぶことを忘れてはなりません。

本研究科は、本気で「新時代を担う、眞のLegal Professional」になろうとしている皆さんのために、それを可能にする教育環境を十分に整えて、皆さんの挑戦を待っています。

### 教育理念を支える4つの柱

少人数・段階的教育

理論と実務の架橋

**「教育理念」**  
新時代を担う  
眞のLegal Professionals  
の育成

複眼的思考と国際性

現代的課題への対応力

# 羽ばたいた 先輩たち

OB・OG interview



自分が次第で可能性が広がる。  
それが弁護士という職業の魅力です。

A portrait of Yamaguchi Satoko, a female lawyer, standing in front of a wooden wall with the text "弁護士法人 淀屋橋・山上合同 YODOYABASHI & YAMAGAMI LPC". She is wearing a dark blazer and a white shirt.

**弁護士**  
山口 晴子 Yamaguchi Satoko  
2017年度 法学未修者コース修了  
弁護士法人 淀屋橋・山上合同

幼少期に海外に住んでいた私は、大阪大学の高等司法研究科に入学しましたが、将来的には、国際機関などで働くことを漠然と希望しており、法曹になること自体を迷っていた時期もありました。しかし、ロースクールの先生方や実務家の先生方のお話を伺う中、弁護士という職業は、あらゆる分野、あらゆる方法で活躍のある職業で、無限の可能性があるという点に魅力を感じ、弁護士を志望するようになりました。

ロースクール時代、倒産法の分野で活躍されている実務家の先生方の講義を受ける機会があり、そこで伺った仕事の話に、純粋にかっこよさを感じ、倒産法

分野に興味を持つようになりました。倒産法分野は、一見してマイナスなイメージを持たれがちな分野ですが、倒産状態を放置せず、何らかのアクションを取ることによって、債権者だけでなく、その事業自体やその会社の従業員を守ることになり、ひいては社会の役に立ち得るものであるということを学びました。

私は、司法修習を経て、2020年の1月より、一般民事事件から会社・渉外関係事件まで幅広い分野の事件を扱う大阪の弁護士事務所に所属しています。倒産分野の事件も扱わせていただき、ロースクールにおいて、座学で学んだことを思い出しつつ、実務にも学びながら、充実した日々を送っています。

そして、ロースクールの先生方や実務家の先生方から伺っていたとおり、自身の考え方や働き方次第で、どのようなこともできることが弁護士として働く魅力であると実感し、その気持ちを忘れず、日々精進していくたいと思っています。

法曹は、チャレンジングであり、魅力的な職業です。皆様と一緒に早く、同じ法曹として切磋琢磨できる日を楽しみにしています。



事件や当事者に向き合い、  
**真摯に取組むことが私のモットーです。**



法科大学院での学びの日々は、実務家法曹の仕事とは何なのか、法曹としてどのような仕事がしたいのか、を考えるきっかけを与えてくれました。弁護士、検察官、裁判官として活躍しておられる先生方のお話を伺うのは興味深く、自分自身の法曹としての将来像を具体化することができましたし、それは司法試験へのモチベーションになりました。基本書に載っていない実務を垣間見る機会をえて頂いたことは、今思い返しても貴重な機会であったと思います。

法科大学院では、多くの友人に恵まれました。講義だけでなく、実務家法曹という同じ目標を持つ仲間同士で自主ゼミを組む等して切磋琢磨し、ときには、日々の努力を労り合ったりと、励まし合える環境を持つことができました。このようなつながりは、実務に出た今でも、仲間の活躍を知ることで、私も頑張ろう、成長しようという意気概に繋がっております。そういう意味でも、法科大学院での日々は、今も実務家法曹として成長する糧になっていると実感しています。

私が裁判官を志したきっかけは、法科大学院でのエクステーンシップでした。悩み、困惑している



物証を発見したり新たな供述を  
**引き出せたとき、充実感を味えます。**



私は、ロースクール修了後、検事として働いています。仕事は多忙を極めますが、自分の想像力を働かせながら、「こんな証拠があるのではないか」「この人はこんな事実を知っているのではないか」と予想しながら捜査し、物証を発見したり、新たな関係者供述を引き出したりできたときは本当に楽しく、充実感にあふれています。

そのような捜査をするための大前提となるのが、大学からロースクールにかけて積み重ねてきた法律の知識です。資格取得のために勉強してきた知識を、直接その後の仕事に活かすことができるという点は法律家のやりがいの大きな一つといえると思います。

勉強をするにあたり、阪大ロースクールは、私にとって施設面においても講義の質においても、最適な環境でした。特に阪大ロースクールの特徴として、どの先生も指導熱心で、学生との距離も近く、先生の部屋に質問に行って即座に疑問点を解消するがしやすいという点が挙げられます。また、実務科目では、一線で活躍する法曹の姿に触れることができ、モチベーションの維持・向上に大きく役立ちます。

私自身、検事を目指すきっかけとなったのは、派遣

当事者双方の気持ちを聴き取り、より良い解決策・選択肢を考えたいと思いました。民事、少年事件を経験し、現在主に刑事事件を担当しております。事件や当事者に向き合い、真摯に取組むことをモットーに、日々職務に向き合うことそれ自体が、私の裁判官としてのやりがいです。



## 裁判官

佐藤 いぶき Sato Ibuki

2014年度 法学未修者コース修了  
旭川地裁 判事補・旭川簡裁 判事

検察官の先生から仕事の話を聞き、検事の仕事に関心をもつたことでした。ぜひとも、阪大ロースクールで、司法試験合格、そしてその先に待つ実務家としての活躍を、単なる夢ではなく必ず到達すべき目標として、精一杯勉強に励んでください。



## 検察官

小西 総一郎 Konishi Soichiro

2014年度 法学未修者コース修了  
東京地方検察庁立川支部 檢事

インタビューの内容は2020年当時のものです。



法曹の知識・能力を

## 固める

### 法律基本科目

公法系、民事系、刑事系の科目は、基礎→応用→発展と着実に知識と能力を積み上げていけるような段階的履修モデルを提供し、高度な法的知識・能力を培います。

1  
年次

基礎

法学未修者が法科大学院の講義に耐えうるだけの法律学の基礎的な学識を修得する。

2  
年次

応用

基礎科目で習得した基礎学識を応用する力を、事例研究などを通じて身につける。法学既修者は基礎科目を修得したものとみなし、応用科目から学び始める。

3  
年次

発展

発展的な事例問題を、理論と実践、実体法と手続法など異なる視点から検討し、積み上げ型学修の総仕上げを行う。

### Teacher's Voice

法律基本科目  
松本 和彦 教授

### 知識だけでなく事案解決に必要な能力の修得を目指す

法律基本科目である「憲法応用」では、仮設の事例問題を素材に、憲法の基本知識を応用し、具体的な事案解決に資する憲法解説論の組立て能力の涵養を目指しています。そのため、判例や学説などの知識の定着を図るだけでなく、事案の分析や先例の区別といった、事案解決に必要な能力も併せて修得できる授業を心がけています。



## 理論と実務を架橋する

### 法律実務基礎科目

法曹としての基礎的な実務能力及び責任感、倫理観を身につける核となる必修科目に、幅広い分野で理論と実務を架橋し応用能力の深化を図る選択必修科目を合わせて約20科目開設しており、主に実務家教員が担当します。

#### 実務能力

法曹に求められる倫理觀、事実認定の方法など、実務の基礎を身につける。

#### 応用能力

模擬裁判や文書作成などを通じて、知識を実践的に使いこなす。

### Teacher's Voice

法律実務基礎科目  
新谷 俊彦 特任教授

### その時、実務家教員は現場で何を考えどう行動したのか

法律実務基礎科目では、みなさんが基礎的な法律実務能力と倫理觀を身につけられるよう、第一線で活躍する実務家教員が担当し、法曹として現場で何を考えどう行動したのかをリアルに伝えていきます。多種多様な科目を提供することによって、様々な法曹像に基づく教育ニーズに対応し、幅広い分野で理論と実務の架橋を図っています。ご期待下さい。



「少人数・段階的教育」「理論と実務の架橋」「複眼的思考と国際性」「現代的課題への対応力」を4つの柱に、授業を行っています。

## 法曹の素養を深める

### 基礎法学・隣接科目

法曹としての素養を深めることを目的として基礎法学分野、隣接諸分野に関する約10科目を開講しています。幅広い教養と豊かな人間性を培い、複眼的思考による深い洞察力を養います。

#### 基礎法学分野

法や裁判の基礎の理解を深める。

#### 人間性 教養 洞察力

法学に限らない幅広い視野や関心から法や紛争をとらえる。

### Teacher's Voice

基礎法学・隣接科目  
三阪 佳弘 教授

### 「法」をデザインできる能力を養う

基礎法学・隣接科目は、法曹としての素養を深めることを目的とした科目です。ここでは、いまある「法」を固定的・不变のものとして見るのはなく、変わりうるものとして批判的に検討します。これらの科目では、社会科学の様々な手法によって法を観察する能力を養います。そのことは、皆さんの未来に向けた法のデザイン力を高めることになるでしょう。



## 理论と実務を

## 架橋する

## 法曹の可能性を広げる

### 展開・先端科目

法曹としての専門性をさらに高め、現代社会における最先端の法的諸問題への柔軟な対応力と学識を涵養するとともに、学生個々のキャリアプランに基づく様々な教育ニーズが満たされるよう40以上の多種多様な科目を開設しています。特に学生の関心が高いと思われる「知的財産法」「ビジネス法」に関する科目を充実させ、3つの具体的な履修モデルを提案しているのが本学の特長です。

知的財産権に関する専門的法曹を目指すなら

履修モデル 1

#### 知的財産権プログラム

知的財産保護の具体的な仕組みや紛争の処理、知的財産と訴訟との関係などを重点的に学ぶ。

特許法／著作権法／経済法1・2・演習／特殊講義C（特許・著作権訴訟）／特殊講義C（アジア知的財産法）等

企業法務に関わる法曹を目指すなら

履修モデル 2

#### 企業財務プログラム

株式・社債の発行など企業が外部から資金を調達する際に利用する法制度について実務の視点を踏まえて学ぶ。

倒産法基礎・応用・演習／租税法1・2・演習／コーポレート・ファイナンス／金融法／金融商品取引法／信託法／特殊講義C（金融取引の契約実務）等

企業経営を支援する法曹を目指すなら

履修モデル 3

#### 経営支援プログラム

企業間取引の円滑な履行や円満な事業承継等を実現するための法制度の利用方法について具体的に学ぶ。

倒産法基礎・応用・演習／経済法1・2・演習／労働法基礎・応用・演習／国際私法1・2・国際取引法／消費者法／信託法等

### Teacher's Voice

展開・先端科目  
藤本 利一 教授

### 選択科目ごとに充実した講義科目を用意

司法試験では、知的財産法や経済法、労働法等8科目から一つを選択し受験します。本学では、どの科目を選択しても、十分に学習できる講義科目を用意しています。たとえば、私が担当する「倒産法演習（3年次）」には、OB・OGの弁護士が講師として加わり、日々の実務の知見をもとに、皆さんの司法試験に向けた学習を支援しています。



# カリキュラムマップ

1年次	2年次	3年次
公法系科目	公法総合演習1(1)、公法総合演習2(1) 連携講義(憲法発展演習)(1)、連携講義(行政法発展演習)	
民事系科目	連携講義(民法演習)(1) 連携講義(会社法発展演習)(1)	
刑事系科目	刑事演習(2) 連携講義(刑事証拠法演習)(1)	
特殊講義A(2) <民事裁判実務演習、リーガル・プロフェッショナルの最先端、政策実践と法、契約実務など>履修対象学年は開講テーマ毎に指定する		
特殊講義B(2) 履修対象学年は開講テーマ毎に指定する		
特殊講義C(2) <B群> <特許・著作権訴訟、アジア的財産法、土地境界紛争の諸問題、法医学など>履修対象学年は開講テーマ毎に指定する		
公法系科目	憲法演習(1)	
民事系科目	民法演習1(1)、民法演習2(1)、民法演習3(1)、 民事訴訟法演習1(1)、民事訴訟法演習2(1) コーポレート・ガバナンス(2)	
	公法訴訟(2)、弁護実務(2)、 エクスターインシップ2(2)、模擬裁判(民事)(2)、 模擬裁判(刑事)(2)、債権保全・回収の実務(2)、 企業再建の実務(2)	
リサーチ&ライティング1(2)	リサーチ&ライティング2(2)	刑事法律文書作成1(2)、刑事法律文書作成2(2)、エクスターインシップ1(2)
法理論(2)	法と経済学(2)、財務報告戦略(2)、生命倫理と法(2)	
法理学(2)、比較法史(2)、法社会学(2)、ローマ法(2)、現代政治学(2)、現代行政学(2)		
<A群> 環境訴訟(2)	<A群> 倒産法演習1(1)、倒産法演習2(1)、 労働法演習(2)	
<A群> 倒産法基礎(2)、倒産法応用(2)、租税法1(2)、租税法2(2)、租税法演習(2)、環境法(2)、 経済法1(2)、経済法2(2)、経済法演習(2)、特許法(4)、著作権法(2)、労働法基礎(2)、労働法応用(2)、 国際法1(2)、国際法2(2)、国際私法1(2)、国際私法2(2)、国際取引法(2)		
<B群> 消費者法(2)、社会保障法(2)、 国際民事訴訟法(2)、信託法(2)、 課題研究1(2)、課題研究2(2)		
<B群> 金融商品取引法(2)、民事回収法(2)、ADR法(2)、コーポレート・ファイナンス(2)、金融法(2)、少年法(2)		
憲法基礎1(2)、憲法基礎2(2) 行政法基礎(2)	憲法応用(2) 行政法応用(2)、行政救済法(2)	公法系科目
民法基礎1(4)、民法基礎2(4)、 民法基礎3(4)、民法基礎4(2) 会社法基礎1(2)、会社法基礎2(2)	民法応用1(2)、民法応用2(2) 会社法応用1(2)、会社法応用2(2)	民事系科目
刑法基礎1(2)、刑法基礎2(2) 刑事訴訟法基礎(2)	刑法応用1(2)、刑法応用2(2) 刑事訴訟法応用(2)	刑事系科目
導入演習(2)	その他科目	
	法曹倫理(2)、 裁判実務基礎(民事)(2)	裁判実務基礎(刑事)(2)

法律基本科目 法律実務基礎科目 基礎法学・隣接科目 展開・先端科目

\* ( ) 内は単位数

(注意) 上記の図には、令和5年度不開講科目も含まれています。

# カリキュラム編成

令和5年の司法試験から在学中受験が可能となります。

本研究科では7月中旬に実施される司法試験に即したカリキュラムを組んでいます。

## 在学中受験に対応したカリキュラム

令和5年度から司法試験制度が改変され、法科大学院在学中に、一定要件を満たした者は、司法試験を受験できることになりました。受験資格を得るには、司法試験受験年の3月31日までに、以下の通り定められた単位を修得していることが必要です。

- 法律基本科目の基礎科目 30単位以上
- 法律基本科目の応用科目 18単位以上
- 選択科目 4単位以上

本研究科では、在学中受験を希望する学生に配慮し、上記単位数要件を期日までに満たすようカリキュラムの一部を改訂しました。また、3年時に配当される科目の一部を春学期・秋学期・冬学期に配置しつつ、それぞれ1単位化したうえで、1回あたりの授業時間を100分、授業回数を7回としました。このように司法試験受験日を含む3年次夏学期の授業負担を軽減しています。また、3年次配当であった一部科目については、2年次でも受講できるよう配当年次を拡大し、在学中受験に対応できるよう工夫しました。さらに、実務系科目の一部を3年次秋冬学期へ移動し、実務修習への接続が円滑に行われるよう配慮しています。

### ● 1単位化による夏学期の負担軽減

- 例：憲法応用2(春夏学期2単位) → 憲法演習(春学期1単位)  
民法応用3(春夏学期2単位) → 民法演習1(春学期1単位) + 連携講義・民法演習(秋冬学期1単位)

### ● 配当年次の拡大

- 例：経済法演習(3年次秋冬学期配当) → 経済法演習(2・3年次秋冬学期配当)  
税法演習(3年次秋冬学期配当) → 租税法演習(2・3年次秋冬学期配当)

### ● 実務系科目の配置転換

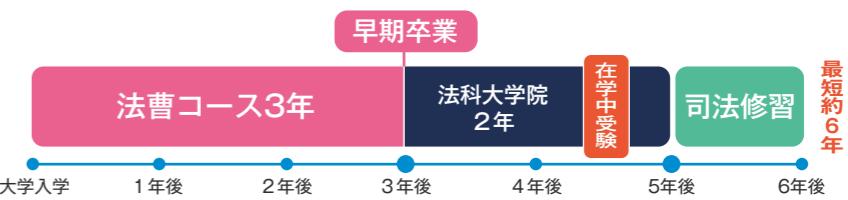
- 例：模擬裁判・刑事(3年次春夏学期配当2単位) → 模擬裁判・刑事(3年次秋冬学期配当2単位)

## 早期卒業制度と法曹コース

早期卒業制度等を利用して法学院(法曹コース)3年次から法科大学院既修者コースに進学した方が、在学中受験制度を活用すれば、法曹資格取得までの時間的・経済的負担の軽減を図ることが可能となります。

詳しくは、ホームページ(大阪大学法学院カリキュラム)をご覧ください。

### 早期卒業と在学中受験を選択した場合



## 在学中の合格を目指すには

在学中受験制度の導入によって司法試験の難しさが軽減されるわけではありません。この制度を利用する方は、普段の授業での学びを中心に、着実に成果をあげていく必要があります。制度の利点を生かすためには、自己の学習に関して、より厳密なマネジメントが求められます。

## 高等司法研究科独自の給付型奨学金制度

高等司法研究科では、経済的理由により修学が困難な本研究科の学生を支援するため、個人や企業・団体の皆さまからのご寄附を基金とした「給付型の奨学金制度(修学支援事業基金)」を設けました。

2018年度から年額30万円の奨学金を給付しています。詳しくは教務係へお問い合わせください。

その他の経済的サポートは、大阪大学のホームページ(奨学金)をご覧ください。





## 弁護士アドバイザーによるサポート

大阪大学法科大学院では本学のOB・OG弁護士をアドバイザーとして招いています。  
現役弁護士ならではのサポート内容について、アドバイザーの林弁護士と中野弁護士に話を伺いました。



## 内容も時間も柔軟に調整できる自由度の

高さが本学のサポートの特長です。

プログラム」を例に挙げれば、学生がゼミのテーマを選べますし、学年が変わっても同じ弁護士を指名することができます。

**中野:** そうですね。基礎に不安があれば定期試験対策、もう少し進んだ段階なら予備試験や司法試験対策という風に、内容も時間も柔軟に調整できるからこそ、理想的なサポートが可能なのだと思います。

**林:** 中野先生はサポートの際、どのようなことを心がけていますか？

**中野:** 進め方についてはできるだけ学生の皆さんのがんばりを尊重するようにしています。また「そもそもこの法律の趣旨はどこにあるのか」「なぜそのような解釈をするのか」「実務ではどのような手続が行われるのか」など、皆さんが自学の際に、具体的なイメージが湧くような説明を心がけています。

**林:** 私が重視しているのは学生の皆さんに「絶対に合格できる」というイメージを描いてもらうことです。司法試験の勉強は分量が多く終わりが見えないため、とてつもない壁のように感じてしまいがちですよね。そこで心が折れてしまわないよう、勉強の仕方さえ正しければ合格できるのだということを、しっかり説明しています。

**中野:** ロースクールの最大の利点は一緒に勉強できる仲間がいること。一人では気付けなかった視点を獲得できますし、仲間とのディスカッションが、試験問題を解く力を養ってくれるのです。阪大ロースクールは学生同士はもちろん、OB・OG、そして先生とも強いつながりで結ばれています。そのためつながりを存分に活用し、自学だけでは得られない経験を積み、一生懸命の仲間と出会ってください。

サポート体制をよりよくするために、随時見直しを行っていますので、サポート内容は年度により変更の可能性があります。



翼が育つ  
環境がある

1年次生 Y.U.さん  
京都大学法学部 卒業

# 学生生活

同じ目標を持つ仲間との切磋琢磨やOB・OG弁護士の指導など独学では得られない学びが魅力です。

私が大阪大学高等司法研究科に入学して良かったと思っていることは、まず、同じ目標を持つ人が身近にいるという点です。私は1年ほど通信予備校を利用して独学で学習を進めていたのですが、自分1人で出来る勉強には限りがありますし、自分自身は1人で勉強を進めるうしてもペースを崩しやすいタイプなので、そういう意味でも周りと切磋琢磨できる環境はとてもありがたいと思っています。

また、年に2回コンタクト・ティーチャーによる個人

面談が設けられていて教授の先生方に学習に関する相談に乗っていただくことができたり、OBの弁護士の先生方に直接ご指導いただける制度があったりと、授業外における学生のサポートも非常に手厚いと感じました。

高等司法研究科には他にも司法試験やその先に向けた様々な取り組みがあると思うので、個人の学習と並行して積極的に参加するところの環境を最大限活かせるのではないかと思います。

月	朝 ~8:50	1限 8:50 ~ 10:20	2限 10:30 ~ 12:00	3限 13:30 ~ 15:00	4限 15:10 ~ 16:40	5限 16:50 ~ 18:20	6限 18:30 ~ 20:00	夜 20:00 ~
	起床～ 予習	授業の予習・復習	民法基礎2①	授業の復習	憲法基礎1	未修の友人と食事しながら学習方法の意見交換		
火	6:00に起床。 1限に授業がある日は予習。大学院までの移動時間にスマホで条文を素読してできるだけ法律に慣れる。	授業の予習・復習	民法基礎1①	授業の復習	ローライブラーで判例のデータベースを開覧	オフィスアワー 進路について先生の意見を聞く	帰りの電車で法学の基本書を読んだり短答式の問題集を解く。帰宅後は授業の予習と復習、23時頃に就寝。	
水	刑法基礎1 法理論	民法基礎2②	再チャレンジ支援プログラムの準備	再チャレンジ支援プログラム弁護士アドバイザーとの質疑応答で基礎力を養う				
木	授業の予習 リサーチ&ライティング1	導入演習	定期面談 学習計画についてアドバイスを受ける	授業の復習				
金	授業の予習・復習	自習室で基本書を読む	民法基礎1②	授業の復習	自主勉強会 同学年の友人や先輩方と親睦を深めつつ多様な考え方につれてる			

ある1年次生の1年

ある1年次生の1週間（春学期）

4月～  
未修の不安を  
交流会で解消  
学生・教員・OB・OGによる交流会。  
勉強法の相談や先輩の体験談などで未修の不安を解消。

5月～  
緊張感のある授業で  
基礎力を養う  
基礎力を養う期間。少人数クラスなので緊張感があり必ずと熱が入る。勉強に不安を感じたら定期面談で先生に相談。

8月～  
期末試験の講評を  
もとに論述力を磨く  
春～夏学期の学習の成果がわかる期末試験。担当教員による講評会や、問題の趣旨や採点実感などを書かれた講評書のおかげで、何をどう書くかイメージをつかめた。夏休みは知識の定着だけでなく論述の方法も意識して勉強してみる。

11月～  
自主ゼミで  
自分の問題点を把握  
秋～冬学期から勉強内容も増え、大変だけど、慣れてきた実感も。そこで友人たちと判例を検討する自主ゼミを開始。自分ひとりでは気が付かなかった問題点を把握できたり、友人の勉強方法を参考にしたり、とてもためになった。11月の定期面談では秋～冬学期の期末試験に向けた勉強計画を立て、選択科目の選択や2年次の履修計画を立てる。

2月～  
1年次の学びに加え  
2年次の準備も  
細かいカリキュラムと先生や弁護士アドバイザーのサポートのおかげで、4月から入ってくる既修生に負けない実力がついたと感じる。けれどここからが正念場。苦手科目を休みみ中に克服するため、授業の総復習に取り組む。4月以後、司法試験合格までの勉強計画を立て、選択科目の選択や2年次の履修計画を立てる。

コンタクト・ティーチャーとの定期面談で勉強への不安が取り除けました。

3年次生 C.O.さん  
大阪大学法学部法学科 早期卒業

24時間自由に使える自習室をはじめ、自分のペースに合わせて柔軟に学べる環境が整っています。

阪大ロースクールは、司法試験の勉強に適した学習環境が整っています。  
2年次以降は具体的な事例を解く形の授業が多いため、授業を通して法的知識を応用する力を身につけることができます。授業で扱った具体的な事例について答案作成をした場合に先生方が個別に添削をくださるために、その添削を受けて司法試験に向けて自分の足りないところを明確に把握することもできます。

また、自習室が24時間使えるので、ライフスタイルに合わせた柔軟な方法で勉強に打ち込むことができます。私は空き教室を借りて、友人らと司法試験の過去問を解く自主ゼミにも取り組んでいます。

阪大ロースクールでの学習で、司法試験に向けての準備はばっちりです。

心強い先生方や  
仲間たちと  
司法試験本番を意識しながら  
勉強しています。

共に学ぶ仲間がいる。支えてくれる人たちがいる。  
一人ではないからこそ、厳しい学びの日々を乗り越えることができます。

2年次生 K.M.さん  
関西大学システム理工学部 卒業

段階的なカリキュラムが組まれているため、私のような他学部出身者も安心して学習することができます。

私は、大学で物理学を学んでいましたが、本や映画等の影響で刑事弁護に興味を持ち、法曹になりたいと強く思うようになったことから、未修者へのサポートが手厚い本学へ入学しました。

最初は不安でしたが、1年次の授業では先生方が初学者を念頭に置いて基礎から丁寧に説明してくださいます。

2年次からは既修者コースと合流し、授業のレベルも上がるので大変です。しかし、応用的な問題を学ぶ

場合でも、あくまで前提となるのは1年次に学習する基礎・基本であり、とにかく1年次に基礎を固めて土台を作ることが大事だと実感しています。そして、本学ではそれが可能となるように段階的なカリキュラムが組まれているので、他学部出身でも安心して学習することができます。

本学は、全力で法律の勉強に打ち込める環境が整っています。法学部の方はもちろん、法学部以外の方も、ぜひ本学で勉強していただけたらいいなと思います。

月	朝 ~8:50	1限 8:50 ~ 10:20	2限 10:30 ~ 12:00	3限 13:30 ~ 15:00	4限 15:10 ~ 16:40	5限 16:50 ~ 18:20	6限 18:30 ~ 20:00	夜 20:00 ~
	起床～ 予習	授業の予習・ 復習	憲法応用	裁判実務基礎 (民事)	再チャレンジ支援 プログラムの準備	再チャレンジ支援 プログラム	弁護士アドバイザーとの質疑応答で 応用力を深める	主に24時間開放の 自習室で、授業の 予復習や司法試験対策の勉強。 土日も登校して自習室で勉強する。
火	6:30に起床。 準備の後、授業の予習をしてから大学院へ。	民法応用1	授業の予習・復習	会社法応用1	院生談話室のパソコンで資料を出力	授業の予習・復習		
水		授業の予習・復習	民事訴訟法応用1	授業の予習・復習	労働法基礎	自主ゼミ	主に期末試験対策。憲法の事例問題について、学生同士で論議する	
木		授業の予習・復習	行政救済法	リサーチ&ライティング2	ローライブラーで判例解説を調べる	特殊講義A (リーガルプロフェッショナルの最先端)	オフィスアワー 自主ゼミの疑問点を先生に質問	平均24時頃。
金		授業の予習・復習	刑事訴訟法応用	司法試験の過去問を検討する	刑法応用1	短答式の問題集を使って勉強	自主勉強会 同学年の友人や先輩方と親睦を深めつつ多様な考え方につれてる	

ある2年次生の1年

ある2年次生の1週間

4月～  
疑問を感じたら  
オフィスアワーを活用  
授業を通じて  
課題を見発する  
授業が始まり、基礎力の不足している分野があることに気がつく。これらに疑問点は、オフィスアワーを積極的に活用し先生に質問。

5月～  
司法試験へ向けて  
実践的な力を付ける  
司法試験へ向けて  
実践的な力を付ける  
春～夏学期の復習と秋～冬学期の予習に加え、司法試験へ向けての勉強も。参考書で短答式の問題集を使って勉強

8月～  
エクステンションに  
参加することで、  
将来のビジョンが  
はっきりしました。

2月～  
キャリア形成のため  
エクステンションに参加  
キャリア形成のため、授業の一環として法律実務事務所・企業法務部門・地方公共団体などにおいて法律実務を体験し学ぶことができるエクステンションに参加。憧れの弁護士事務所での研修を通じて、実務の実際や法曹の心構えを教えていただいた

11月～  
定期面談で勉強の  
方針が明確に  
司法試験へ向けて  
実践的な力を付ける  
春～夏学期の復習と秋～冬学期の予習に加え、司法試験へ向けての勉強も。参考書で短答式の問題集を使って勉強

2月～  
ロライブラリー  
模擬法廷  
専用自習室

ロライブラリー  
法律関係の図書を所蔵しています。学習に必要な判例などを検索できるDVDやインターネットリソースも利用可能。

模擬法廷  
法律実務およびプレゼンテーション能力をはじめとする法廷技術の実践的な学修を行う施設です。

専用自習室  
24時間利用可能。学生一人ひとりに固定の席が割り当てられており、いつでも好きな時に自習や予習復習ができます。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンラインでの実施を含め、一部変更が生じています。

# 教員紹介

法曹界の第一線で活躍する実務家・研究者の教員が、皆さんの教育に携わります。

## 専任教員

	教授 青竹 美佳 民法
--	-------------------

	教授 片桐 直人 憲法
--	-------------------

	教授 久保 大作 商法
--	-------------------

	准教授 小池 未来 国際取引法
--	-----------------------

	准教授 品田 智史 刑法
--	--------------------

	教授 高橋 智也 民法
--	-------------------

	教授 高原 知明 民事訴訟法
--	----------------------

	教授 武田 直大 民法
--	-------------------

	准教授 田中 啓之 租税法
--	---------------------

	教授 茶園 成樹 知的財産法
--	----------------------

	准教授 地神 亮佑 労働法
--	---------------------

	教授 名津井 吉裕 民事訴訟法
--	-----------------------

	教授 野呂 充 行政法
--	-------------------

	教授 藤本 利一 民事訴訟法
--	----------------------

	教授 松井 和彦 民法
--	-------------------

	教授 松尾 健一 商法
--	-------------------

	教授 松本 和彦 憲法
--	-------------------

	教授 三阪 佳弘 法制史
--	--------------------

	教授 水谷 規男 刑事訴訟法
--	----------------------

	教授 村西 良太 憲法
--	-------------------

	特任教授 新谷 俊彦 法曹倫理
--	-----------------------

	特任教授 苗村 博子 企業法務
--	-----------------------

	特任教授 奥田 達生 民事実務
--	-----------------------

(五十音順)		
--------	--	--

## 兼任教員（学内）

教授 大久保 規子	行政法
教授 坂口 一成	中国法
教授 高井 裕之	憲法
教授 高橋 明男	行政法
教授 武田 邦宣	経済法
教授 陳 思勤	知的財産法
教授 豊田 兼彦	刑法

教授 長田 真里	国際私法
教授 中山 竜一	法理学
教授 仁木 恒夫	民事訴訟法
教授 林 智良	ローマ法
教授 福井 康太	法社会学
教授 福田 雅樹	情報通信法
教授 松田 岳士	刑事訴訟法

教授 松本 博志	法医学
准教授 高 秀成	民法
准教授 高田 陽奈子	国際法
准教授 鳥飼 将雅	比較政治
准教授 二杉 健斗	国際法
准教授 長谷川 佳彦	行政法
特任助教 中塚 敏光	法医学

# 各種データ

## 司法試験結果

### 2022年司法試験結果

受験者	短答合格者	最終合格者
111人	95人	51人

### 最終合格者数・受験者合格率の推移

試験年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
最終合格者数(人)	66	50	46	34	47	51
受験者合格率(%)	40.7	37.6	41.1	37.8	40.9	45.9

### 累積合格率(合格者/受験者実数)

累積受験者実数	累積合格者数	累積合格率
1209人	826人	68.32%

## 修了生の進路状況 (2023年2月22日現在、教務係へ進路について報告があった数)

修了年度	司法修習中*	司法試験合格者						公務員	その他		
		裁判官	検察官	法律事務所	公務員・ 公的機関	企業内 弁護士	起業		企業	進学	不明
2014	0	2	3	48	0	2	4	0	1	1	3
2015	0	0	2	38	0	3	1	0	2	0	0
2016	0	1	5	47	0	4	0	1	0	1	1
2017	0	0	1	36</td							

## 入試案内

### ■ 高等司法研究科が求める人材像

高等司法研究科は、法科学院制度の理念及び本研究科の「豊かな人間性、厳しい職業倫理を備えた法曹を養成する」という理念に共感し、他の学生と積極的にコミュニケーションを図り、教員とともに研鑽を積む学生を求めています。求める具体的な人材像は、単なる知識の習得や一つだけの答えに満足せず、柔軟な発想のもとに「考える」という論理的プロセスを大事にし、自らが設定する課題を探求しようとする学生です。また、法科学院は、高度な専門職を養成する教育課程ですから、厳格な成績評価や進級認定、修了認定に耐えるだけの努力を惜しまない学生を求めています。

\*アドミッション・ポリシーの詳細は、研究科HPをご覧ください。

選抜区分	特別選抜(社会人等)	特別選抜(グローバル法曹)
対象	社会人・他学部(他学科)卒業者	外国語能力に優れた方
コース	法学未修者コース	法学未修者コース
定員	7名程度	5名程度
選抜	第1次選抜 (書類審査) 8月下旬(予定)	第2次選抜 9月中旬(予定)
試験会場	大阪会場 *	
合格発表	10月下旬(予定)	

選抜区分	一般選抜	
対象	法学既修者	法学未修者
コース	法学既修者コース	法学未修者コース
定員	35名程度	13名程度
選抜	第1次選抜 (書類審査) 10月中旬(予定)	第2次選抜 11月上旬(予定)
試験会場	大阪会場 *	
合格発表	12月上旬(予定)	

選抜区分	特別選抜(法曹コース5年一貫型)	特別選抜(法曹コース開放型)
対象	本研究科と法曹養成連携協定を締結している 法曹コースを修了見込みの者	法曹コースを修了見込みの者
コース	法学既修者コース	法学既修者コース
定員	12名	8名
選抜	第1次選抜 未定 第2次選抜 9月中旬(予定)	第1次選抜 未定 第2次選抜 11月上旬(予定)
試験会場	大阪会場 *	大阪会場 *
合格発表	10月下旬(予定)	12月上旬(予定)

\*東京会場での実施については検討中です

入試に関する日程や試験会場は、決定次第WEB上で速やかに公表します

阪大 法科大学院



### お問い合わせ

大阪大学大学院高等司法研究科 教務係  
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-6  
TEL:06-6850-6948



公式ホームページ  
<http://www.lawschool.osaka-u.ac.jp/>



認証評価「適合」

2023~2024

# 大阪大学法科大学院

## 大学院高等司法研究科

待兼山から羽ばたく。